

- 開催要項 -

「四国遍路と世界の巡礼」国内シンポジウム

テーマ： 四国遍路と世界の巡礼

- その歴史的諸相の解明と東西比較 -

日時： 2003年11月29日(土) 公開シンポジウム(13:00~16:30)

場所：愛媛大学共通教育棟大講義室(正門を入れて右折、図書館北側です)

入場無料(事前の予約はいりません)

主催：愛媛大学法文学部科研費「四国遍路と世界の巡礼」プロジェクトチーム

共催：愛媛大学法文学部多文化社会研究会(第6回公開シンポジウム)

後援：愛媛県教育委員会(予定)、松山市教育委員会(予定)、愛媛新聞社、

NHK松山放送局(予定)、NHK松山文化センター

今日、四国遍路は、1950年代に始まったモータリゼーション(巡拝バスやマイカーなどによる参拝)による遍路の大衆化に続く、戦後第二の変容期にあるとされています。引き続き多くの人々が遍路に参加してきている中で、「歩き遍路」が大きく復権してきている点が今日の特徴でしょう。それは、現代社会の中で求められている「いやし」が遍路文化の根底にあると多くの人々が見ているからでしょうし、事実そうした遍路体験記も多く出版されています。

こうした中、このシンポジウムは、四国遍路の変遷とその特徴を探求するため、その歴史的な様々な局面を多様に分析すると共に、世界各地の巡礼との比較の道をも探ってみたいと考えています。本シンポジウムを通して遍路文化への関心が一層高まることを期待しています。

挨拶： プロジェクト代表：内田九州男教授

法文学部長：今泉元司教授

司会：松原弘宣、山川廣司

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| ①願掛け・参詣・遍路(巡礼) | 内田九州男(愛媛大学法文学部教授) |
| ②遍路と巡礼- その構造比較- | 小嶋博巳
(ノートルダム清心女子大学文学部教授) |
| ③ゲミレル島遺跡と巡礼活動 | 中谷功治(関西学院大学文学部教授) |
| ④中国の霊山と癒し | 加藤國安(愛媛大学教育学部教授) |

研 究 集 会

テーマ： 四国遍路と世界の巡礼— その歴史的諸相の解明と東西比較—

日 時：2003年11月30日（日）

場 所：愛媛大学法文学部大会議室（8F）

この研究集会は、巡礼学やフランス中世史研究等からの問題提起と、日本史、日本芸能史、歴史地理学の各分野とイングランド近世史の報告で構成し、遍路・巡礼研究の前進と東西比較の道を探ろうとするものであります。遍路・巡礼研究に関心をよせる多くの研究者の参加を期待しています。

問題提起

10：00～11：30

司会：藤田勝久、西 耕生

内田九州男（愛媛大学法文学部教授）

小嶋博巳（ノートルダム清心女子大学文学部教授）

渡邊昌美（高知大学名誉教授）

昼食

個別発表

12：30～16：30

司会：若江賢三、菅谷成子

- ①四国遍路の形成について 寺内浩（愛媛大学法文学部教授）
- ②中世の寺社参詣と地方権力 川岡勉（愛媛大学教育学部教授）
- ③近世演劇に見る順礼の諸相 河合眞澄（大阪女子大学人文社会学部教授）
- ④納経帳から見た、幕末から明治初期の遍路道の変更
稲田道彦（香川大学経済学部教授）
- ⑤近世期の『へんろ』と村社会 - 往来手形と日記を通して -
山本秀夫（香川県立文書館）
- ⑥阿波の巡礼とその資料 長谷川賢二（徳島県立博物館主任学芸員）
- ⑦イングランド宗教改革と巡礼の消滅 吉田正広（愛媛大学法文学部助教授）

問い合わせ先：790-8577 松山市文京町3番地 愛媛大学法文学部 山川廣司 電話 089-927-9333 e-Mail:yamakawa@11.ehime-u.ac.jp
